

富士山登山者の富士山におけるゴミに対する意識

佐川雅也（生涯スポーツ学科 野外スポーツコース）

指導教員 中野友博

キーワード：富士山，ゴミ，意識

1. 諸言

富士山は1960年代頃から登山者が増加し、ゴミ問題が深刻化するようになった。近年、散乱ゴミの回収量は毎年数トンにもものぼるようになり、ゴミ問題を解決するため、国、自治体、市民団体等によって大々的な清掃活動、持ち帰り運動等が展開されてきた。現在では五合目以上の登山道における散乱ゴミは、以前より目立たなくなった。しかし、未だにゴミの不法投棄は続いており、富士山のゴミ問題は解決されていないのが現状である。

筆者は富士山のゴミ問題が解決されない原因は、富士登山者のゴミに対する意識が低いことが原因なのではないかと考えた。

そこで本研究では、富士山登山者の富士山におけるゴミの意識について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

調査対象は、富士山登山経験者50名（男25名、女25名）とした。調査は2014年10月4日に富士スバルライン5合目吉田口で行った。アンケートは性別、年齢、出身地、富士山に登った年、富士山登山回数、誰と登山したかの属性6項目と「富士山カントリーコードの認知度」「富士山におけるゴミ問題の危機意識」「富士山の任意協力活動（登山料、トイレのチップ）の現状」「富士山の環境意識」についての項目を野口健の著書「富士山を汚すのは誰か」と「富士山カントリーコード」を参考に作成した14項目の合計20項目である。

3. 結果と考察

富士山を訪れるみんなのルールである富士山カントリーコードのゴミに関する項目は女性、30～40代、富士山登山回数2～3回の登山者の結果が他の属性と比べて高かったため、富士山に対するゴミの意識が高いと考えられる。

富士山におけるゴミ問題の危機意識は女性、30～40代、関東地域（東京、埼玉、神奈川）、富士山登山回数2～3回の登山者の結果が他の属性に比べて高かったため、危機感が強いと考えられる。

富士山の任意協力活動の現状は、30～40代、富士山登山回数2～3回の登山者の多くが任意協力活動に対して協力的だとわかった。30～40代、富士山登山回数2～3回の人々は富士山に対して任意で協力金を支払えるほど富士山に対する関心が高いことが分かった。

富士山に対する環境意識は30～40代の登山者の結果が他の属性に比べて高かったため、富士山に対して環境意識が高いと考えられる。逆に10～20代、世界遺産登録前、富士山登山回数1回の登山者は結果が低く、富士山に対する環境意識が低いと考えられる。また、野口(2008)の著者から富士山を観光地と感じている人が88%と高いことから、富士山はゴミ問題が起きやすい環境であると考えられる。

4. まとめ

富士山登山者のゴミに対する意識は、30～40代、富士山登山回数2～3回の登山者はすべての項目において高かった。そのため環境意識、危機意識、任意協力活動への意欲が高いと考えられる。10～20代、世界遺産登録前、富士山登山回数1回の登山者は富士山の環境意識は低いと考えられる。

富士山を観光地と感じている人が88%と高いことから、富士山はゴミ問題が起きやすい環境であると考えられる。

この結果から、30～40代、富士山登山回数2～3回の登山者は富士山におけるゴミに対する意識が高いといえる。

主要参考・引用文献

環境省ホームページ、

<http://www.env.go.jp/park/fujihakone/effort/fuji.html> (11月11日)

ネイチュアエンタープライズ(2014)富士山保全協力金正直言って少ない - 岳人, pp137

野口健(2008)富士山を汚すのはだれか - 清掃登山と問題, 株式会社角川グループパブリッシング, pp203

富士山オフィシャルサイト、

<http://www.fujisan-climb.jp/useful/toilet.html> (11月15日)